

登録コード:MH430300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	生活支援機器論【20M以降】 Neurophysiological basis of assistive technology		
担当教員	佐賀里 昭 他 上村 智子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学専攻 / 3 年 後期 水曜・2 時限		
単位数、講義室	1 単位	保健学科 1 2 1 講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	支援機器が生活で活用される歴史的背景と作業療法の関わりを理解する。今後、臨床場面で活用される様々な支援技術の重要性を理解し、作業療法における支援技術導入の具体例を通して支援方を提案できる。具体的な行動目標は下記の3点である。支援技術の概念が説明できる。支援技術に関する評価について説明できる。支援技術への作業療法士の関与について説明できる。	
	MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・作業		
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	生活支援機器を活用するための幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、多様な対象者に対応し、作業療法評価・治療・指導において活用できる。	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	作業療法士の専門性を活かし、対象者の生活の質を向上させるための生活支援機器の設計・活用能力を培い、目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	
授業で学べる「テーマ」	環境共生、健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	心身機能の障害がある人の生活を支援する機器や物理的環境の整備について学習する。授業では、簡易な道具から先端技術応用によってもたらされる支援技術までを扱う。このような支援技術の具体的な導入や、適応評価に関する取り組みについても学習する。加速する支援技術進歩と応用の国際的動向にも目を向け、作業療法における生活支援に積極的に活用・応用していくための基礎理論を学ぶ。 本授業は、1年次に学んだ「系統解剖学」、「運動学」、2年次に学んだ「日常生活支援論」、3年次に学んだ「日常生活支援論演習」の知識が前提となります。本授業の内容は、4年次の臨床実習における重要な知識となります。 本授業は、担当教員の医療現場における作業療法士としての実務経験を活かして講義を行います。なお、本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。		
授業計画	第1回（9月30日）：作業療法における支援技術（AT）概論 第2回（10月7日）：生活行為テクニカルエイド 第3回（10月21日）：生活行為テクニカルエイド 第4回（10月28日）：住環境福祉 第5回（11月4日）：自助具製作概論 第6回（11月11日）：中間試験 第7回（11月18日）：自助具製作 第8回（11月25日）：自助具製作 第9回（12月2日）：自助具製作 第10回（12月9日）：自助具製作 第11回（12月16日）：報告会 第12回（12月23日）：報告会 第13回（1月6日）：報告会 第14回（1月13日）：報告会 第15回（1月20日）：まとめ、授業アンケート 第16回（1月27日）：最終レポート課題		
授業の進め方	授業は、配布資料に基づいて進めていきますが、能動学習による理解の深化を目指すため、質疑応答に重きを置いて展開します。実習では、自助具製作を行い、作業療法に関連する既習の内容を含めて知識を体系的に整理し、報告していただきます。		
テキスト、教材、参考書	テキスト、教材 なし 資料は授業で配布します。 参考書 作業療法ジャーナル編集委員会：テクニカルエイド		
成績評価の方法	中間試験と最終レポート課題と実習課題の成果に基づいて、総括的に成績を評価します。総括評価の配分は、中間試験40％、最終レポート課題20％、実習課題40％とし、総計の60％以上を合格とします。最終レポート課題は1月27日に評価を行い、実習課題は、12月16日、12月23日、1月6日、1月13日の報告会で評価を行います。 「支援技術の概念を説明することが可能か」、「支援技術に関する評価について説明することが可能か」、「支援技術への作業療法士の関与について説明することが可能か」については中間試験と最終レポート課題と実習課題で確認します。		

成績評価の基準	レポート課題と実習課題の成果による総合的な成績評価の判定基準は、下記の通りとします。 90 - 100点：秀 80 - 89点：優 70 - 79点：良 60 - 69点：可 なお、これらの採点の基準は、試験及びレポートや報告会の説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論理的な妥当性などを指標とし、これまでの授業で説明した範囲における、最低限の説明内容であれば、「水準にある」、やや詳細な説明内容であれば「やや上にある」、十分に詳細な説明内容であれば「かなり上にある」、これまでの授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学習した詳細な説明内容であれば「卓越している」と判定します。
事前事後学習の内容	【事前学習について】 授業終了時に、次回までに学習しておく資料や教科書の範囲を説明します。 【事後学習について】 毎回、授業のはじめに、前回の授業の要点について質問を行いますので、授業で配布した資料や授業で実施した教科書の範囲を十分に復習してください。 本授業の単位取得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）＋自己学習時間15時間（1時間×15回）＝45時間 以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	本科目は既習または並行して学習する作業療法に関連した科目を基盤として構成されています。 受講の際は、「日常生活支援論」等の講義内容と併せて学習を進めてください。 質問への対応：佐賀里 昭 sagaria@shinshu-u.ac.jp 上村 智子 tkamimu@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（要事前連絡） 保健学科南校舎2階 佐賀里研究室 毎週木曜日12：00～13：00 保健学科中校舎4階 上村研究室